

## 令和2年度 第1回嘉麻市総合教育会議 会議録

- 議会等の名称 令和2年度 第1回嘉麻市総合教育会議
- 開催日時 令和2年7月20日(月) 11:00～
- 開催場所 嘉麻市役所 本庁舎5階 5A会議室
- 公開又は非公開の別 一部非公開
- 非公開の理由 資料及び説明内容に学校名が出るため
- 出席者等
  - ・出席者 市長 赤間 幸弘 教育長職務代理者 豊福 眸子  
教育委員 佐竹 正利 教育委員 辻田 喜美 教育委員 犬丸 隆行  
教育長 木本 寛昭 副市長 白石 二郎
  - ・欠席者 なし
  - ・執行機関 総合調整監 秋吉 俊輔  
企画財政課 課長 大村 輝生 参事 高野 浩典 課長補佐 宮田 恭子  
係長 松岡 彰 主査 塩塚 律子  
教育委員会 教育総務課長 柴田 きよみ 学校教育課長 朝比奈 昌二  
教育総務課参事 赤坂 晋 学校教育課長補佐 日高 典子  
学校施設課長 原岡 隆徳 生涯学習課長 末永 康洋  
スポーツ推進課長 大友 義裕

■ 傍聴人数(会議を公開した場合のみ) なし

### ■ 議題及び審議の主な内容

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

##### ・報告

(1) 令和元年度 嘉麻市立中学校卒業生の進路結果について

・学校教育課より、令和元年度市内中学校卒業生の進路状況について報告。福岡県の平均を上回っており確実に進学率は上がっている。ここ数年私立高校への進学が増加傾向である。成績上位の生徒が、学業特待生として進学したり、文科系部活動の部活動特待推薦、運動部活動でスポーツ特待による進学が増えていることや、高等学校就学支援金等の充実により、特色ある教育環境の私立高校の進学が増加してきたと分析している。

##### 〈主な質疑及び意見等〉

○今年度は進路結果や学力検査の結果などの総合教育会議での報告が遅くなっており、総合教育会議よりも前に議会へ報告されている。また、議会に出す資料については、市長決裁を取らなければならないが、決裁が取られていない。

⇒今後はそういうことがないように注意します。総合教育会議への報告事項及び審議いただく内容がある場合は、企画財政課へ申し入れを行います。

○進路結果の資料の数字に誤りがある。議会にも提出する資料となり、数字の誤りがあれば市長が議会から指摘されることになるので、資料を作成する際は十分注意をするように。

○私立の進学が増えていると説明があったが、学校別の構成率を見る限り、そこまで変わっていない。偏差値の高い学校に進学しづらくなっているのでは。そのあたりの分析が知りたいので、来年度期待する。

### (2) 標準学力検査 NRT (令和2年度2月実施分) の結果について

・学校教育課より、標準学力検査 NRT (令和2年度2月実施分) の結果について報告。昨年度より0.3ポイント下がったが、平成26年度より6年連続、全国平均の50を超えている。短期改善検証サイクルが確立され、具体化し取組を推進できた成果であるにとらえているが、学校間、学年間、学級間の格差が見られる。改善策とし基礎基本の定着に向けた習熟度別指導の徹底や「書く活動」「主体的・対話的で深い学び」の視点を位置付けた授業づくりの推進。各学校へ学力推進指導主事を派遣し、若い教員の授業力向上に引き続き力を入れる。家庭学習の習慣化を目指し個に応じた課題を提示するように、主幹教諭研修や学力向上担当者研修会を通し、全校的な取組を進める。さらに「嘉麻市土曜未来塾」における個別指導を充実させていく。中学校のフクト標準学力検査については、結果が届き次第報告する。小学校 NRT の結果は本市の公開規定に従い、5月中に HP に公開している。

#### 《主な質疑及び意見等》

○低学年は少し上がってきているが、高学年になると悪くなるのはなぜか。原因追及と分析が必要である。

○各学校の結果を、各学校の HP に公開しているとなっているが、公開していない学校がある。

⇒各学校ごとに HP に公開しているが、公開する時期にばらつきがある。

○規定には学力検査の結果を学校だよりと HP にあげることになっているが、学校だよりには掲載されていない。学校だよりと HP への掲載は以前より教育委員会との約束である。この約束が守れないようであれば、各学校の結果を一覧にまとめて市の HP で発表することになる。

⇒学校だよりと HP への掲載について、各学校へしっかりと指導を行う。

### (3) 令和元年度 生徒指導上の諸問題に関する実態調査について

学校教育課より、令和元年度 生徒指導上の諸問題に関する実態調査について報告。不登校について令和元年度において小学校15名、中学校36名、小中学校合計51名となっており昨年度より1名減となっている。全国不登校発生率は全国的に年々増えてきているが、本市においては「30人以下学級措置」開始の平成23年度より着実に減少している。このことは、「30人以下学級措置」による細やかな対応が可能となった効果と分析している。今年度の嘉麻市全体の目標は不登校児童数生徒数43名以下としている。平成30年度の全国出現率が1.68%で本年度の嘉麻市の生徒児童数2741名に、全国出現率かけると46.3になり、目標が達成すれば、全国の発生率を下回る。令和元年度は臨時休校期間があったが、今後も子育て支援課をはじめ、関係機関と密に連携していく。いじめについては、小学校31件、中学校23件、合計54件となっており、この4年間で激増しているが、いじめの定義に沿って些細なことでも積極的に認知し、早期発見、早期指導した結果であり、いじめによる自殺、長期欠席等の市長に報告義務のある重大事態は発生していない。

《主な質疑及び意見等》

○今年度の目標について、43名としているが、基本的には0である。以前、民生文教委員会で、目標は0ではないかと指摘があった。中長期的目標は0、短期的目標は43名と表現するなど、議会に対してしっかり説明する必要がある。

【配布資料】

- ・令和元年度 嘉麻市立中学校卒業生の進路結果について（報告）
- ・標準学力検査 NRT（令和2年2月実施分）の結果について（報告）
- ・令和元年度 生徒指導上の諸問題に関する実態調査について（報告）

